

### 第3回「ツール・ド・北海道安全対策検討会」議事要旨

#### (開催要領)

- 1 日 時 令和6年1月30日(火) 10:00~12:00
- 2 場 所 Web会議
- 3 出席委員 座長 萩原 亨(北海道大学 大学院工学研究院 教授)  
委員 甲谷 恵(公益社団法人 北海道交通安全推進委員会筆頭副会長)  
委員 林 辰夫(アジア大陸自転車競技連合理事)  
委員 武藤俊雄(北海道大学 公共政策大学院 准教授)  
委員 宮澤崇史(宮澤崇史 Management Office bravo 代表)
- 4 議事次第
  - (1) 開会
  - (2) 検討会
  - (3) 閉会
- 5 配布資料  
説明資料  
第2回ツール・ド・北海道安全対策検討会議事要旨

#### (検討会概要)

- 1 開会
- 2 検討会  
事務局から「警備体制等」についての説明を受けた後の、各委員からの発言については以下のとおり。
  - 警備員(立哨)はカーブを見通せる位置であるピーク(カーブの先端)に配置すべき。
  - 警備員の安全意識、役割や責任を代表会社から会社へ、会社から警備員に伝わっていなかった。どこかに目詰まりがあったと考えられる。
  - 警備を長く経験しているから警備内容をわかっているだろうではなく、主催者がどのような要請をして、どのような資料を渡し、その資料がどのように伝達されて末端まで行くのか、という伝達の仕組みを検証する必要がある。
  - 経験があるから今回も大丈夫だと思うのはとても危険なこと。警備が緩んでしまう可能性がある。警備の質を高くすることが大事である。
  - 今後、高齢化が一段と進み、労働力を確保することが更に困難になる。そのため警備関係者会議や業務説明というものを依頼内容に入れ、それらを業務として受け止めてもらう体制づくりが重要である。  
協議内容やコースが変更にならなくても、警備員や社会環境の変化がある

ため、警備員や警備会社の管理者への研修や業務内容の伝達等をきちんと整備しておくということが重要なポイントになる。

- 警備員は選手やレースの安全を保障するためにいる。コース内の危険な箇所や重要な箇所と思われるところに、ロードレースを熟知している者を配置すべき。
- 警備員や交通整理員（自治体ボランティア）は、腕章や帽子だけでなく視認性の高いビブス（ベスト）を着用すべき。
- 待機しているドライバーにレースの位置情報や、待ち時間、迂回路情報などを説明できる警備員の質の向上が必要である。
- 警備員等との連絡体制の再整備。
- ツール・ド・北海道は参加選手に力の格差があるため、タイムギャップが大きい。隊列が広がることを考えて警備体制を作らなくてはならない。
- コースで危険なところは観客を完全にシャットアウトする。迂回路が確保できないところは観戦場所を決め、そこに行くルートを決めるなど、警備員だけに頼らない仕組みの構築が必要である。
- 選手の安全を守る、地域住民の利便性を確保するなど公益性に触れている部分については、レースの主催者同士で情報交換、意見交換をすることで、ノウハウが共有され、大会の効率的な改善につながっていくのでは。
- 警備員の質を高めつつ、量の改善をすべき。他のレースからアクセスコントロールなどを学び、良いところはツール・ド・北海道の具体的な対策に盛り込んでいきたい。

(以上)